

晴  
風  
集  
全

特別  
5  
6066





月夜

全

15  
6066

57-2495





晴のおも吉原半月おぼくも昔子の  
 絶調申せたるも武蔵野の月さへ  
 かの里の月おぼくは恥らふ三都の  
 殿のむけう花さくらよりいこまに  
 東都の繁華とまゝ一むし  
 祇園の上のうらやまも昔の  
 志多ふくしむるも月よりの

アキキ





あまのうらみはららら 杉松のあまのうらみ  
あまのうらみはららら 秋と昔のあまのうらみ  
あまのうらみはららら 秋と昔のあまのうらみ  
あまのうらみはららら 秋と昔のあまのうらみ  
あまのうらみはららら 秋と昔のあまのうらみ  
あまのうらみはららら 秋と昔のあまのうらみ  
あまのうらみはららら 秋と昔のあまのうらみ  
あまのうらみはららら 秋と昔のあまのうらみ  
あまのうらみはららら 秋と昔のあまのうらみ  
あまのうらみはららら 秋と昔のあまのうらみ

あまのうらみはららら 秋と昔のあまのうらみ  
あまのうらみはららら 秋と昔のあまのうらみ  
あまのうらみはららら 秋と昔のあまのうらみ  
あまのうらみはららら 秋と昔のあまのうらみ  
あまのうらみはららら 秋と昔のあまのうらみ  
あまのうらみはららら 秋と昔のあまのうらみ  
あまのうらみはららら 秋と昔のあまのうらみ  
あまのうらみはららら 秋と昔のあまのうらみ  
あまのうらみはららら 秋と昔のあまのうらみ  
あまのうらみはららら 秋と昔のあまのうらみ

百は草舎は之を









日為陽精  
又あひひ  
ひ



一家の礼や、初日  
あそび  
紫

良 乃 題



世乃中のおうりき  
周しゅう一いつふふ月げつ  
路長

朔さく

ついで

今接り人  
ひのひ



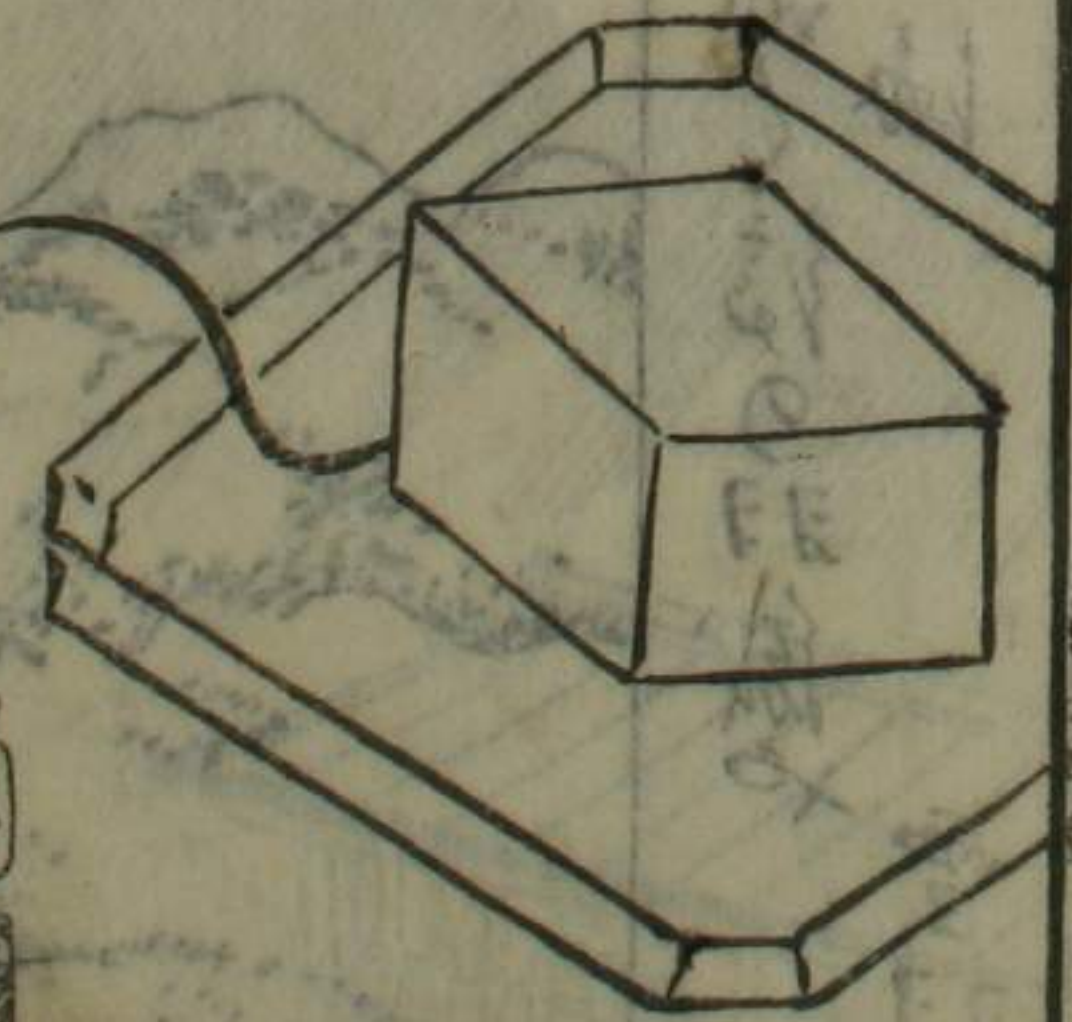
毎首八画

面心く燃筆  
明ぬ梅乃躬  
基筆

望ぼう

りつ


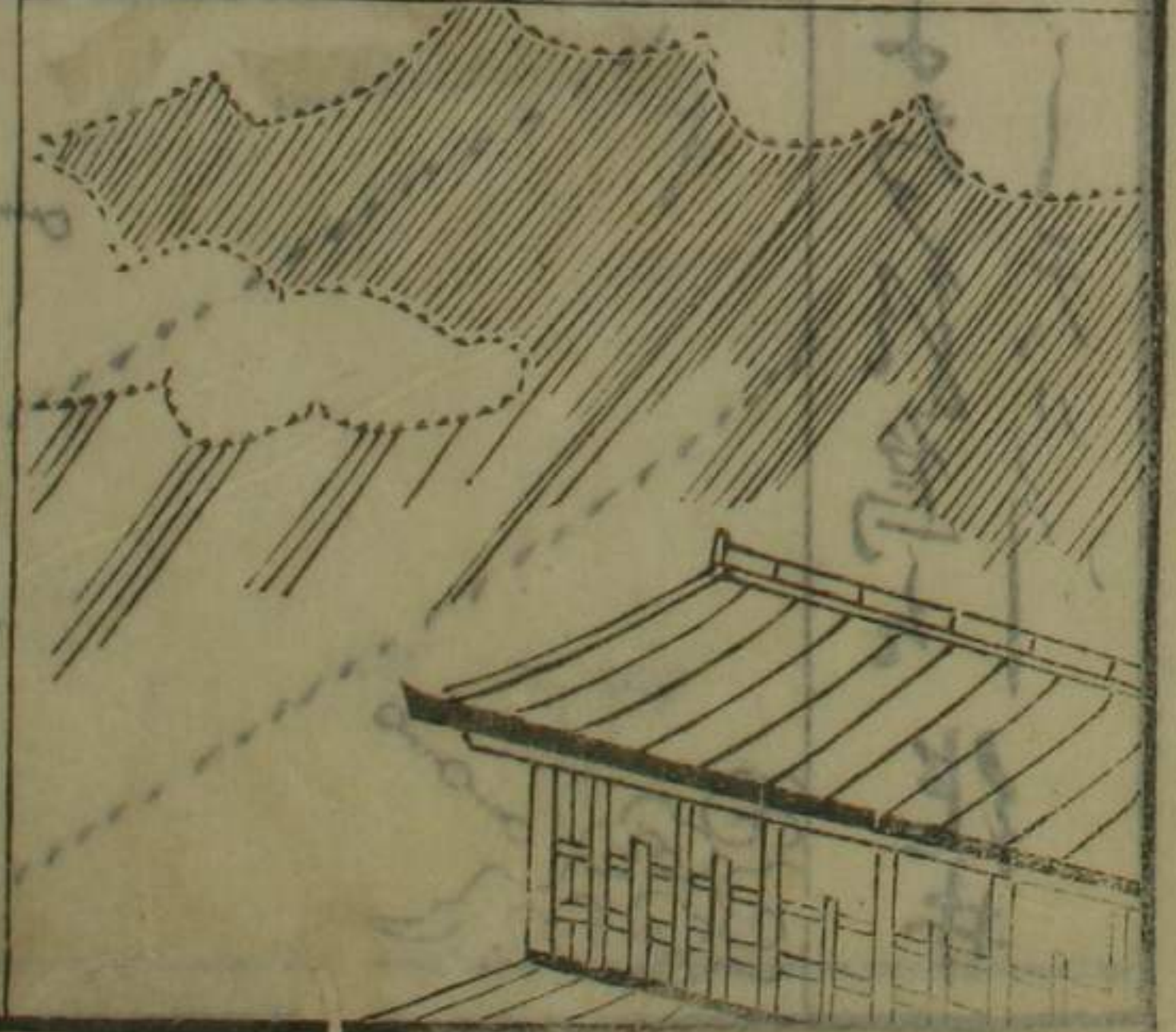
接物日





月画

神皇乃  
氣羅乃  
今  
且



<p>露 つゆ</p>	<p>古云未彌 厭之</p>
<p>市井</p>	
<p>雨</p>	<p>あめ 爾雅久雨 曰霖</p>
<p>龍</p>	

<p>雲</p>	<p>くも のり</p>
<p>純 徳</p>	
<p>霧</p>	<p>きり 朝きり</p>
<p>雪 羽</p>	



# 地理

<p>雪 膏 濃 明 朔 紀 衣 裳</p>	
<p>橋 小 天 乃 井 紀</p>	

雪 せつ

今云 け  
今云 け

雪 膏  
濃 明  
朔 紀  
衣 裳



牽牛 けんきゅう


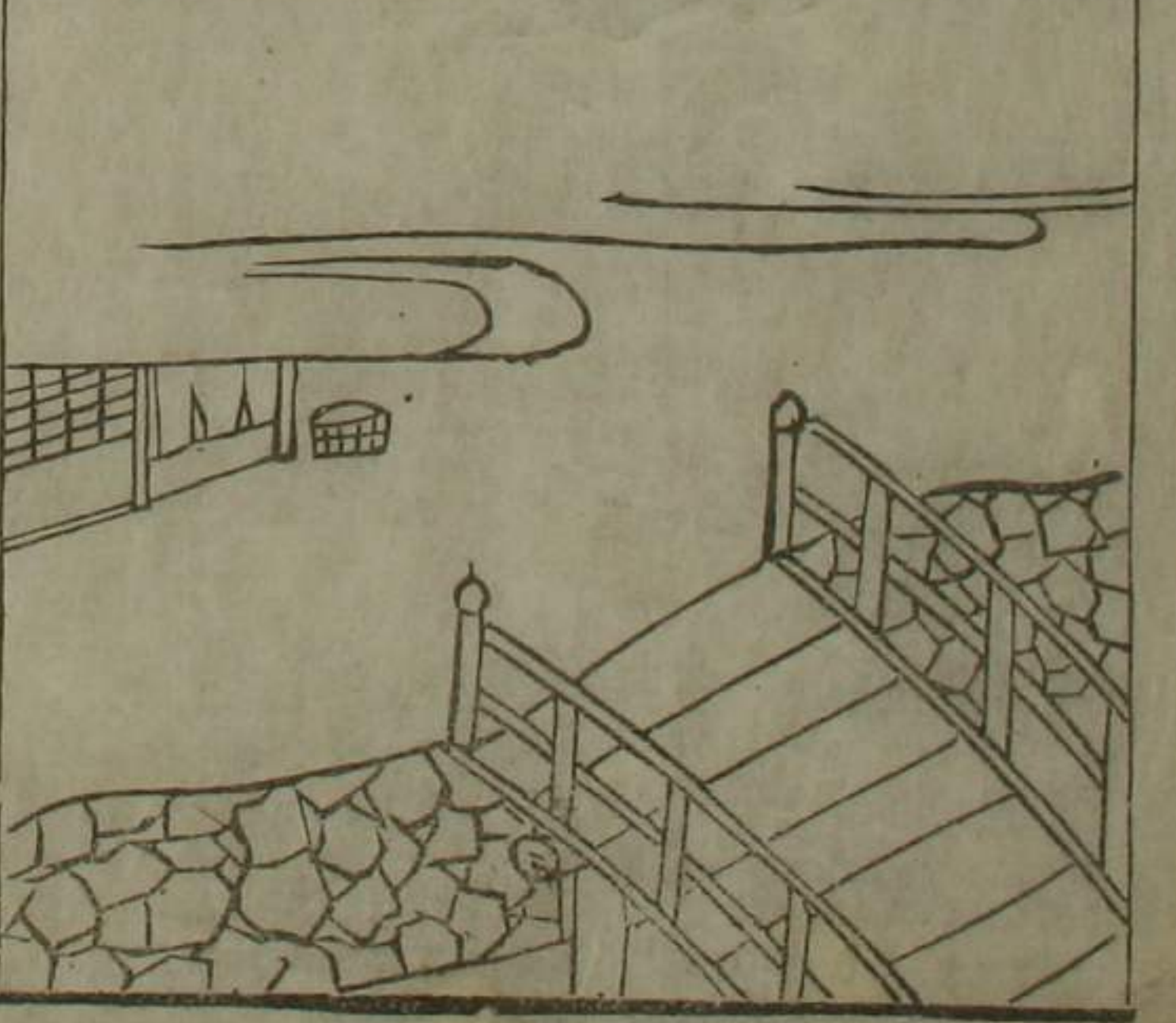
織女 おりひめ  
今按物日

橋 小  
天 乃  
井 紀

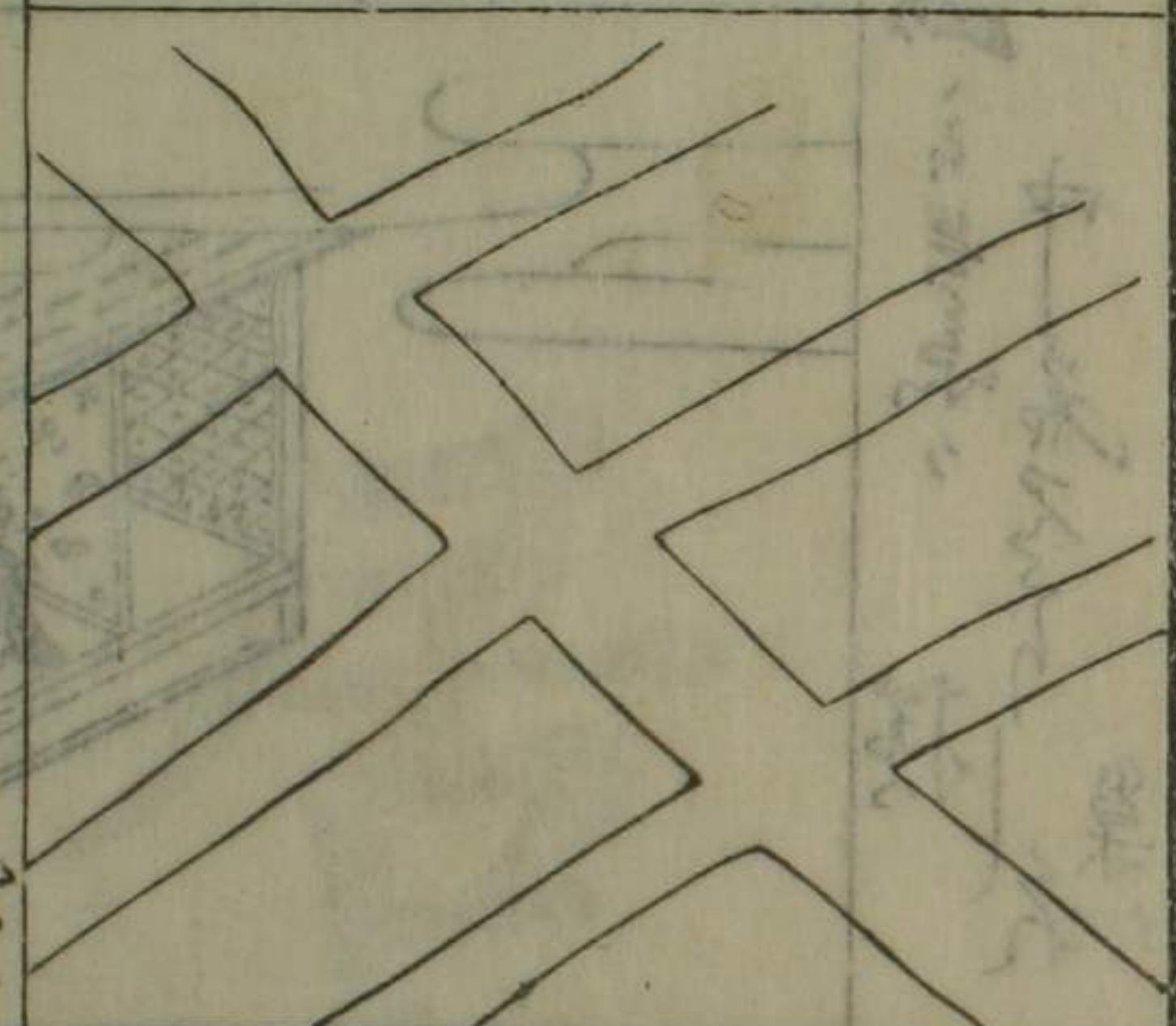




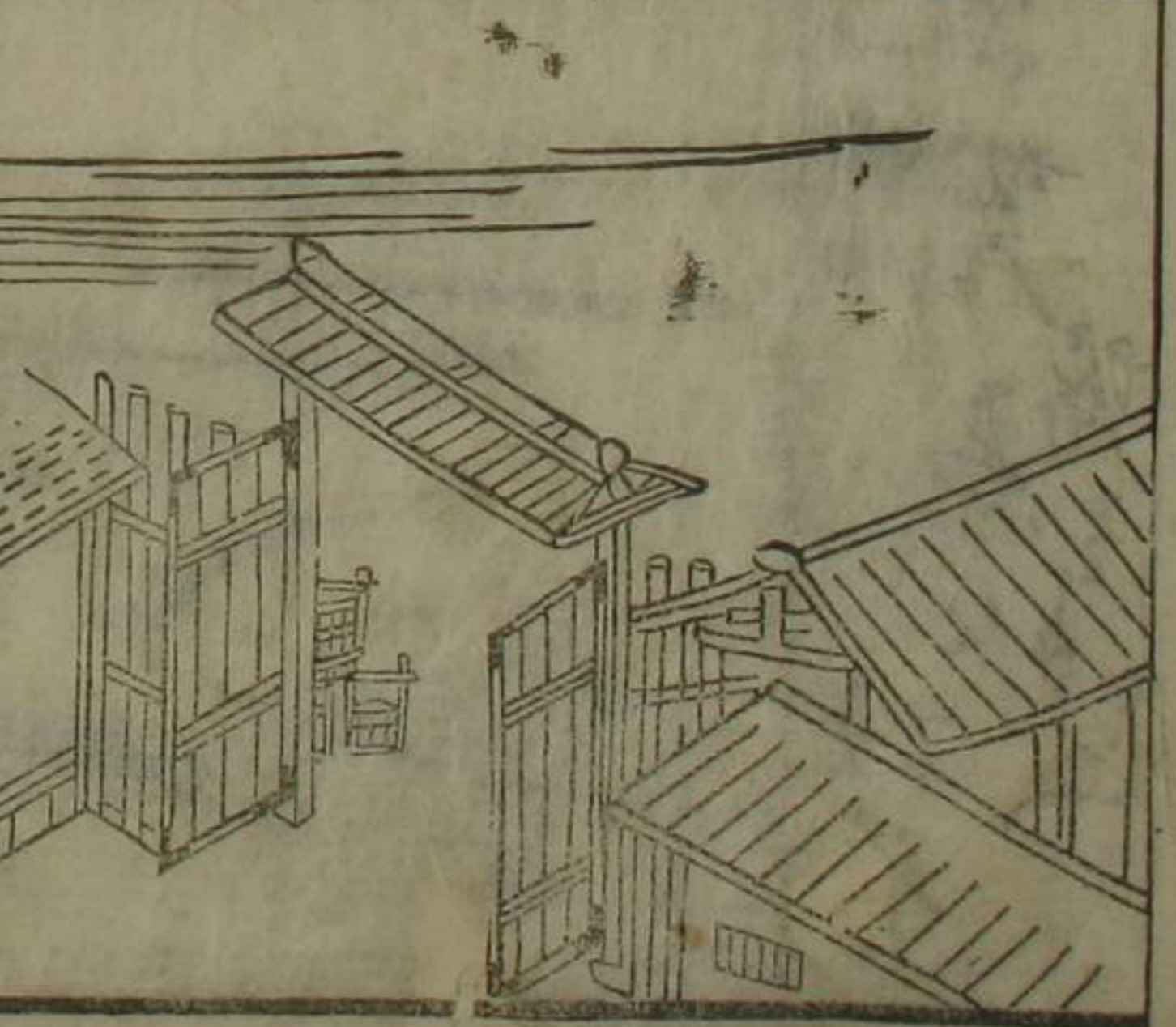


<p>ちのさく力を うらみ夜ぬけ 柳雨</p>	<p>俗云 七手 疆封</p>  <p>紀貝七目</p>
<p>早切や うらみ世乃 壱部 杜谷</p>	<p>又 七手 畔</p>  <p>碓内画</p>

<p>の早川 あくる のさく 紀見</p>	<p>又 梅墨河 よこ不 川</p>  <p>紀貝画</p>
<p>碓さりの わしん 橋の名 水</p>	<p>梅 橋</p> 

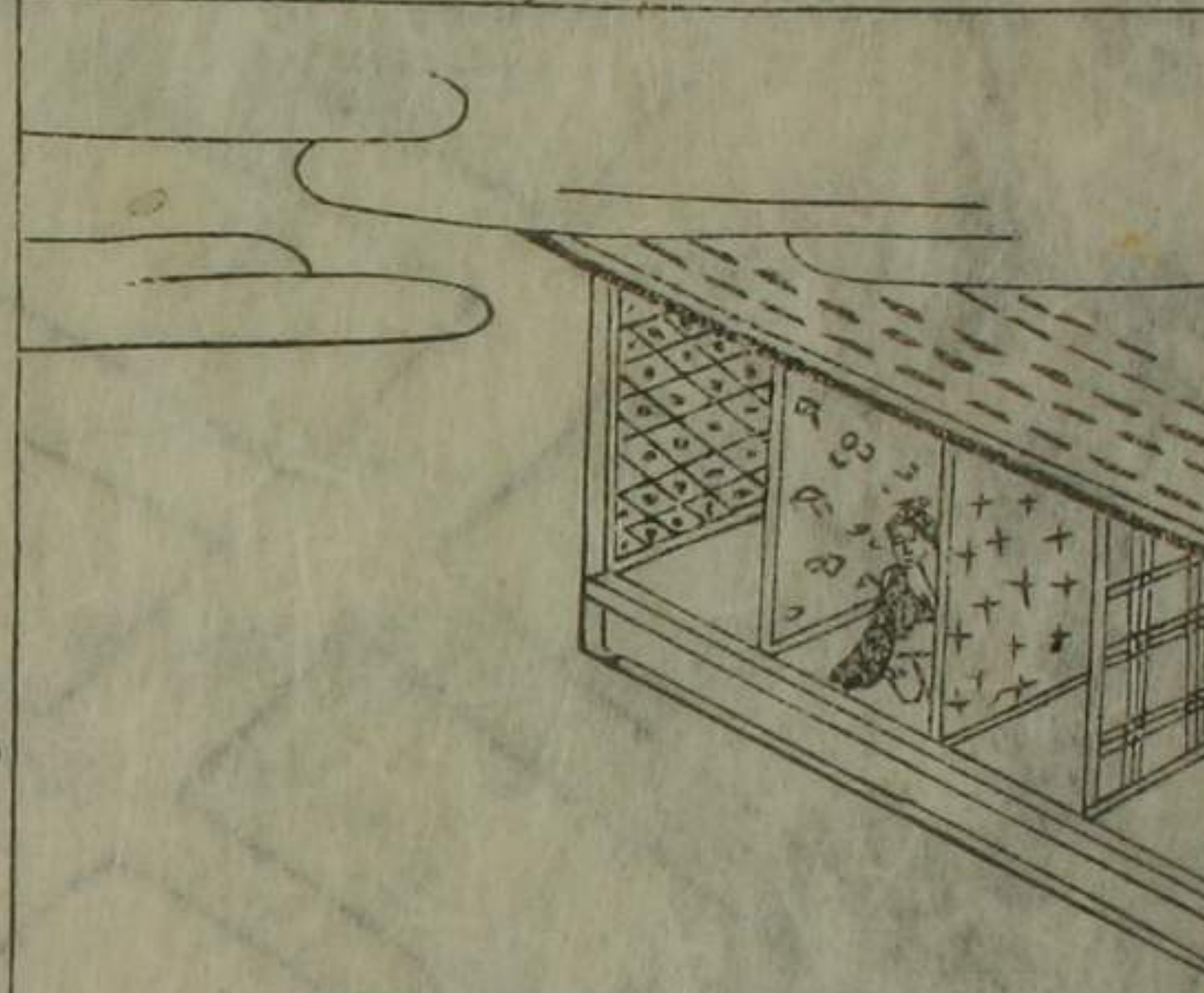



<p>伊豆の山並み          郭の秋草          後日智          絶景</p>	<p>町          今          五          十</p> <h1>花街</h1> 
<p>ちりあし          鼻のひげを          一そり          旭馬          安麿</p>	<p>梅          を          う          の</p> <h1>道</h1> 

<p>柳          ま          せ          の          少          女          坂          主          静</p>	<p>名          り          の          坂</p> <h1>襟坂</h1> 
<p>大          門          の          静          け          の          時          志          咲          純          景</p>	<p>俗          の          間</p> <h1>間</h1> 



# 居處

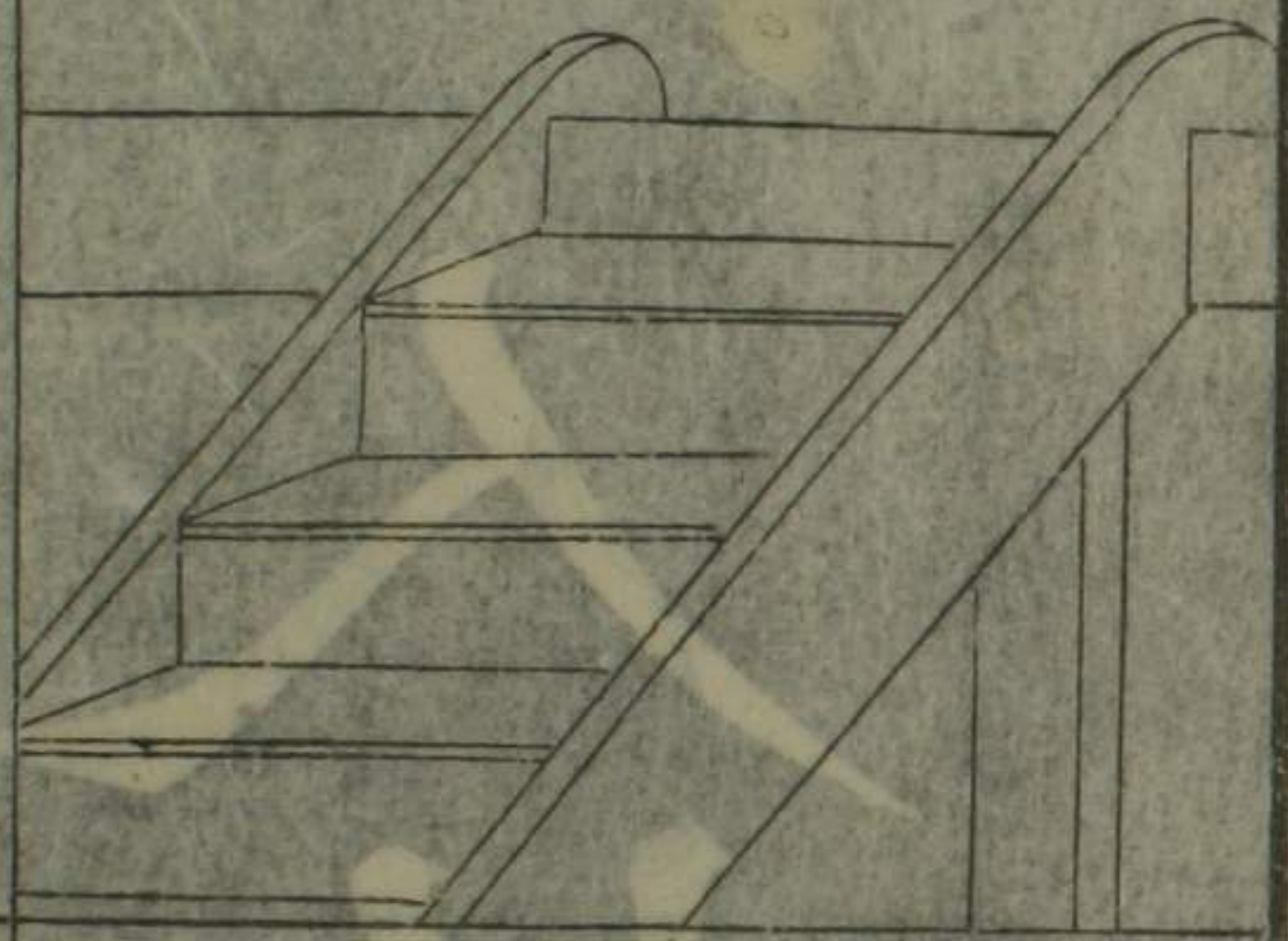
<p>四 中 集</p>	<p>又 岐 旁</p> 
<p>切 甘</p>	<p>石</p> 



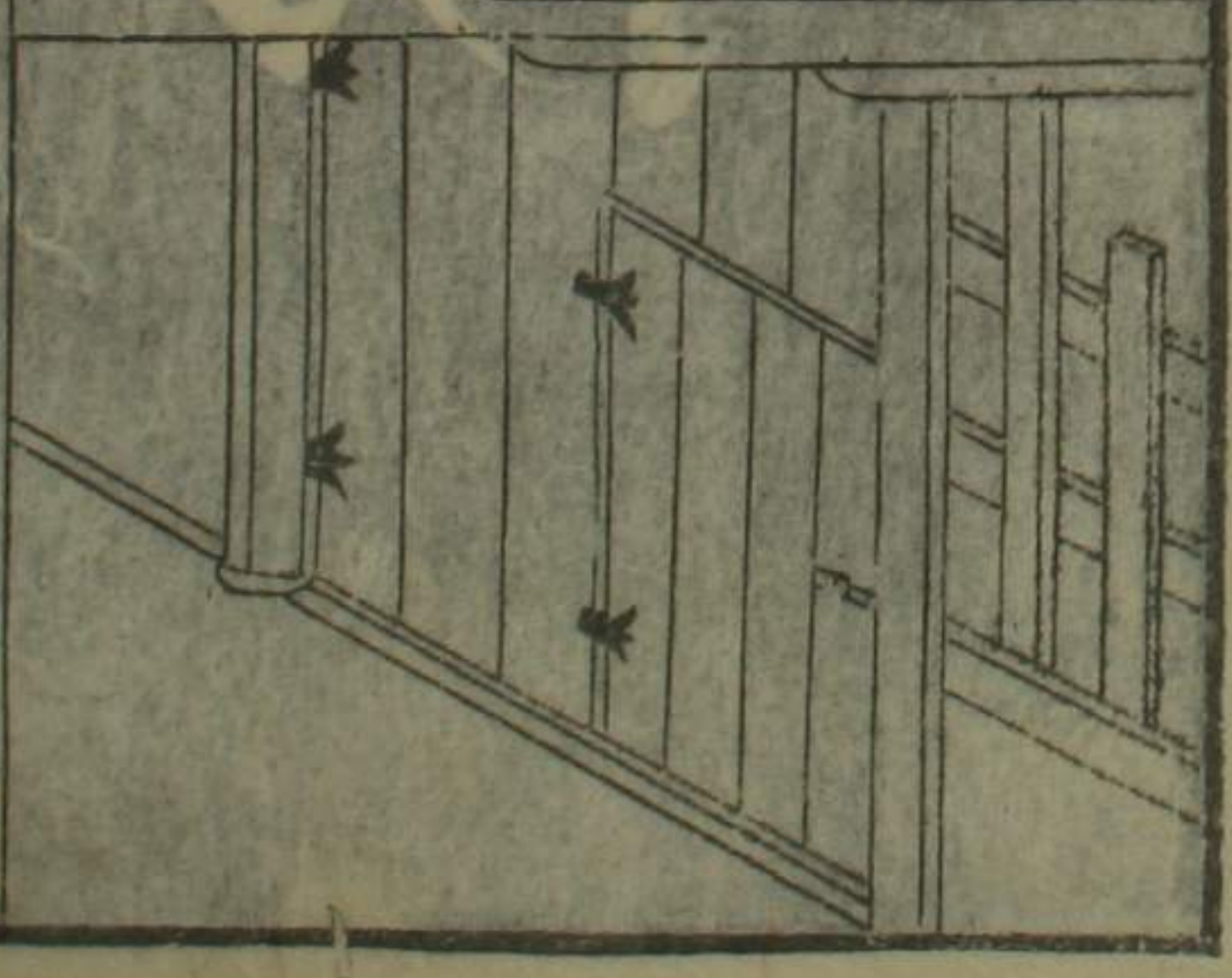




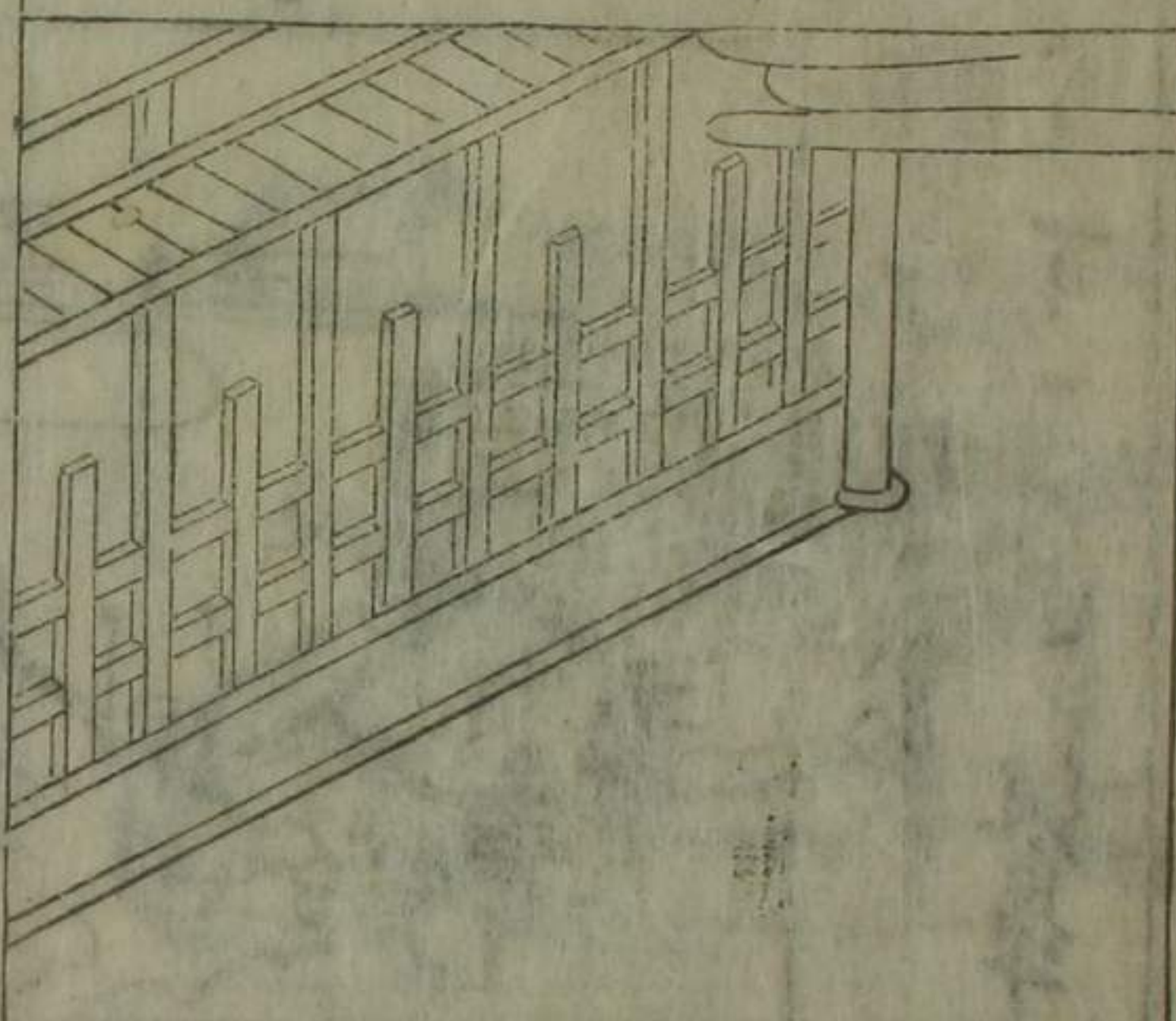
階かゝい  
 土階つちかゝい 土階つちかゝい の階かゝい 子こ 階かゝい  
 土階つちかゝい



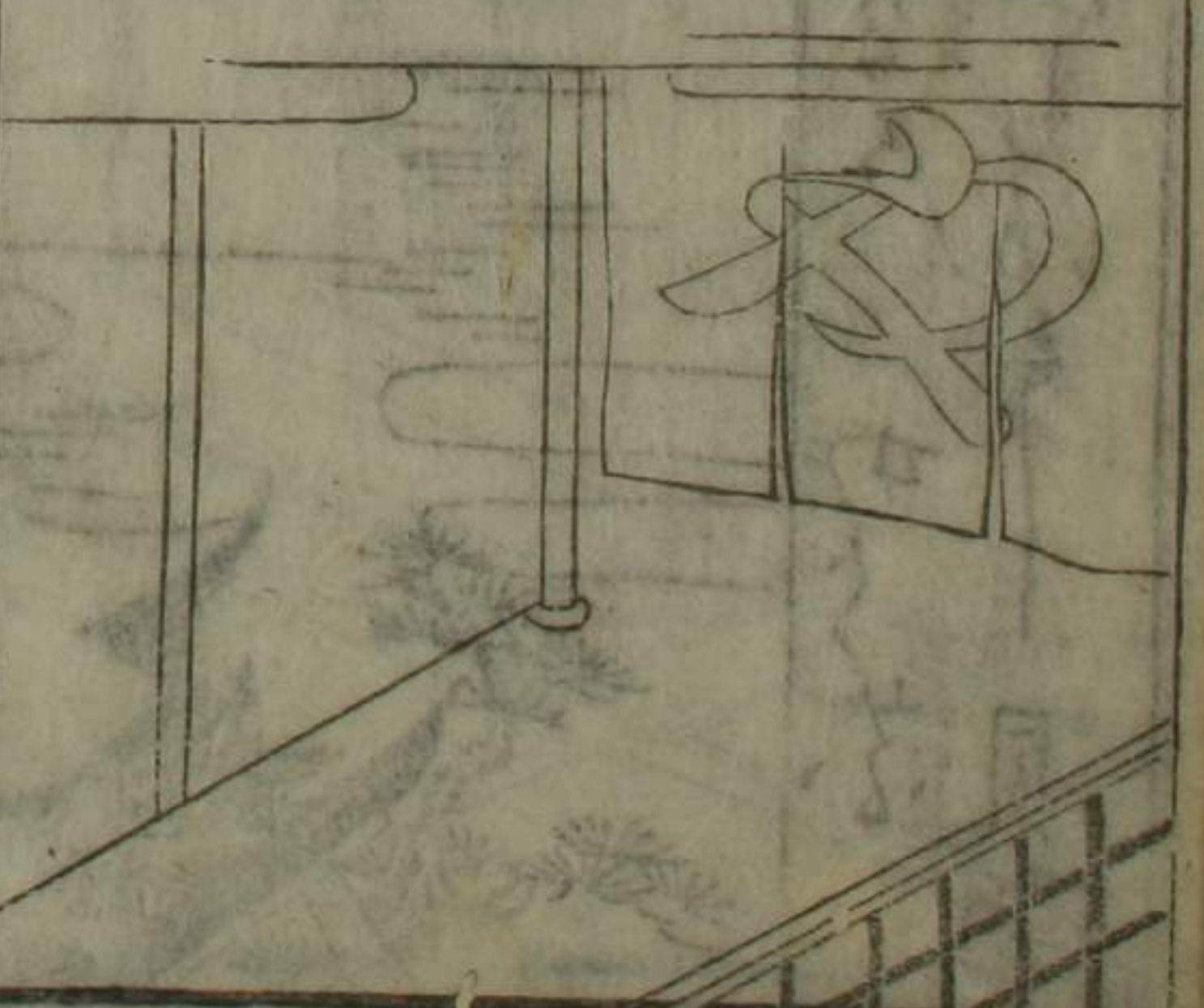
廊らう  
 廊らう の廊らう 子こ 廊らう  
 廊らう



橋かゝ  
 土橋つちかゝ 土橋つちかゝ の橋かゝ 子こ 橋かゝ  
 土橋つちかゝ



窓まど  
 窓まど の窓まど 子こ 窓まど  
 窓まど





# 人物

娼婦

俗云女郎

子

あつとあつとてんお紀貝  
ひらね、柳うさ



在貫

小鬟

かみり  
又こども

雨

目とあつとろの純舞  
舟に





子蕩こたう



恒常の良人 秋芳の良人  
中月の花毛

頭牽かぶ



神々香々 常陸守の良人  
赤乃所 柳旭

針婦はり



袖の良人 恒文の良人  
系さるる 逸文

庖人いた



庖丁の良人 金環の良人  
丸川 松角 九曲



# 衣服

袴 (袴) 袴 (袴) 袴 (袴)  
 袴 (袴) 袴 (袴) 袴 (袴)  
 袴 (袴) 袴 (袴) 袴 (袴)  
 袴 (袴) 袴 (袴) 袴 (袴)

母 (母)

やりて



袴 (袴) 袴 (袴)  
 袴 (袴) 袴 (袴)  
 袴 (袴) 袴 (袴)

舟子 (舟子)

せん



舟 (舟) 舟 (舟)  
 舟 (舟) 舟 (舟)  
 舟 (舟) 舟 (舟)

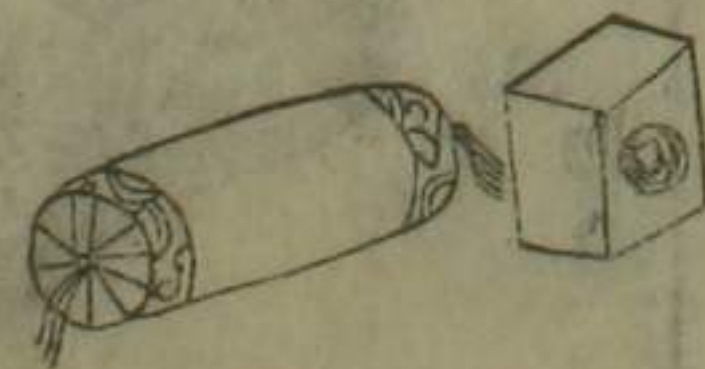


長袖 ながそで



ハダカ  
振袖の  
圓の  
形も  
主  
豊

枕 まくら



秋の  
枕  
こころぬ  
枕  
拍

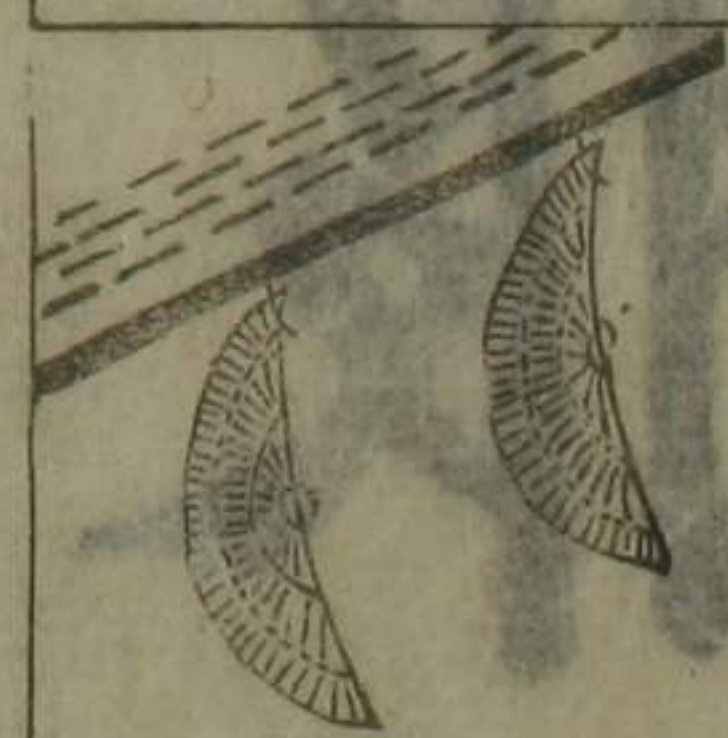
帯 おび



多色  
の  
帯  
小  
うら  
うら  
や  
友  
友

路  
考

笠 かさ

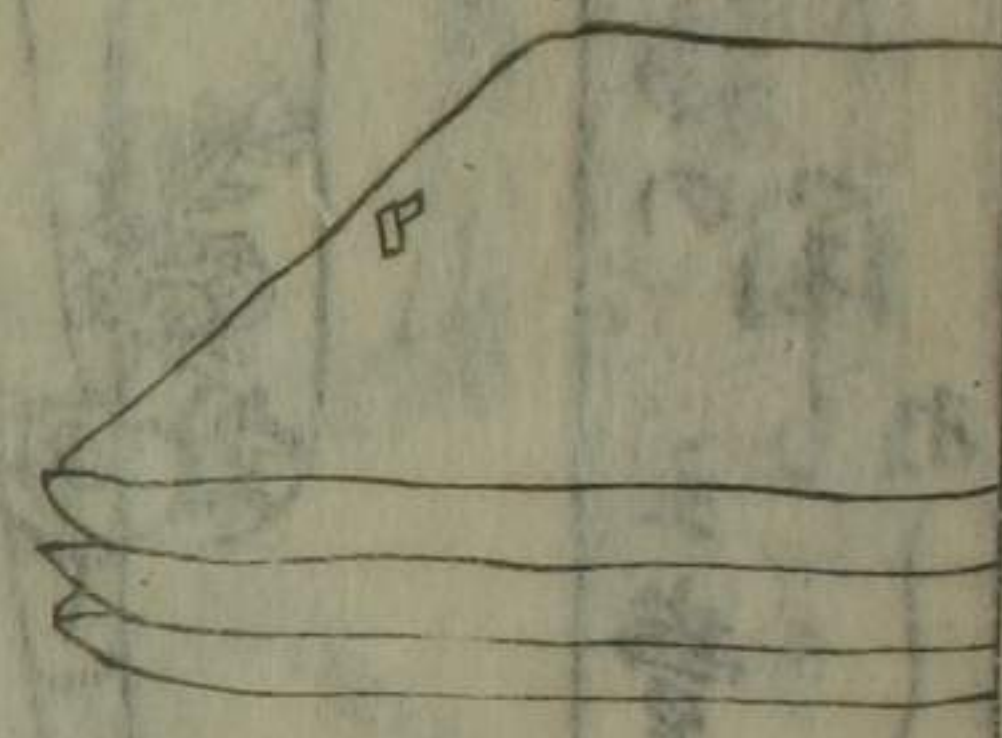


ふし  
の  
笠  
琴  
霍

十四



重社



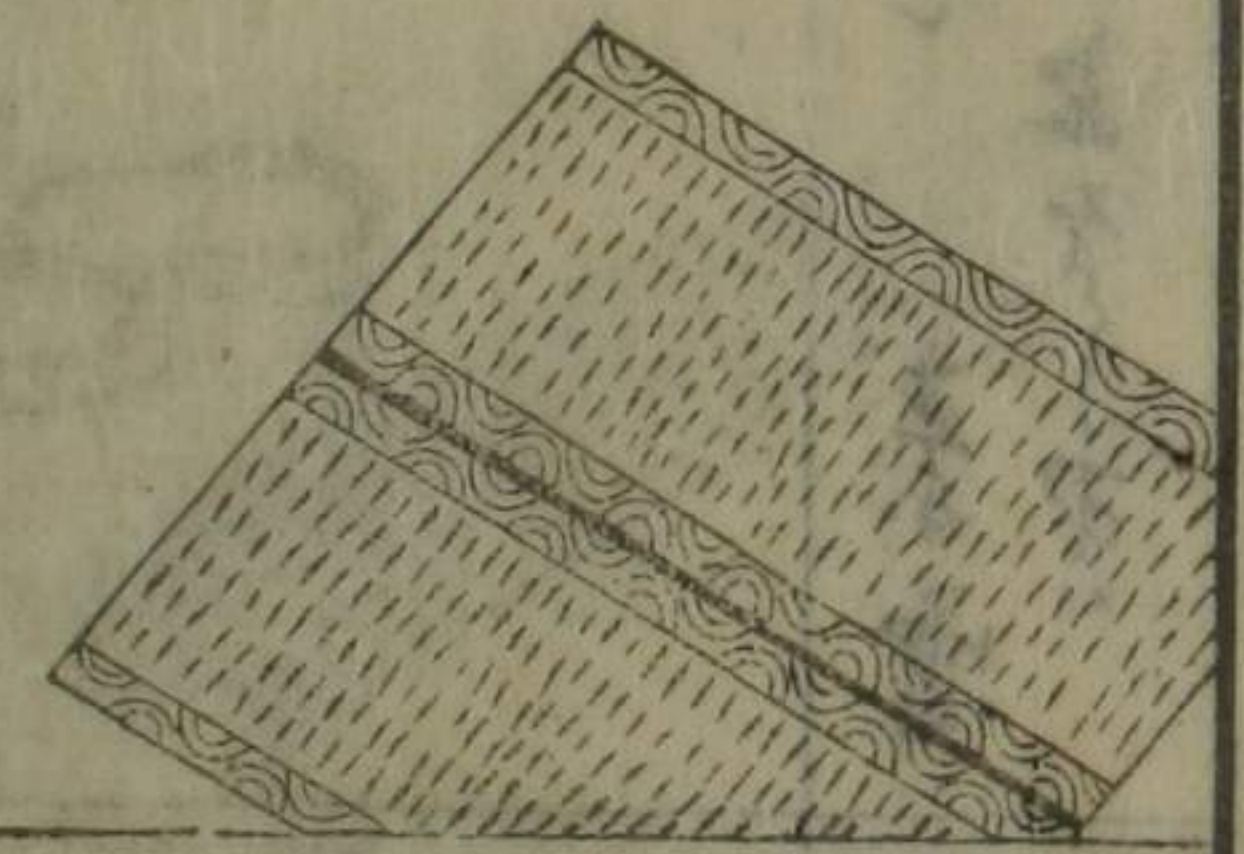
子尔... 葛... 紀宴

衾



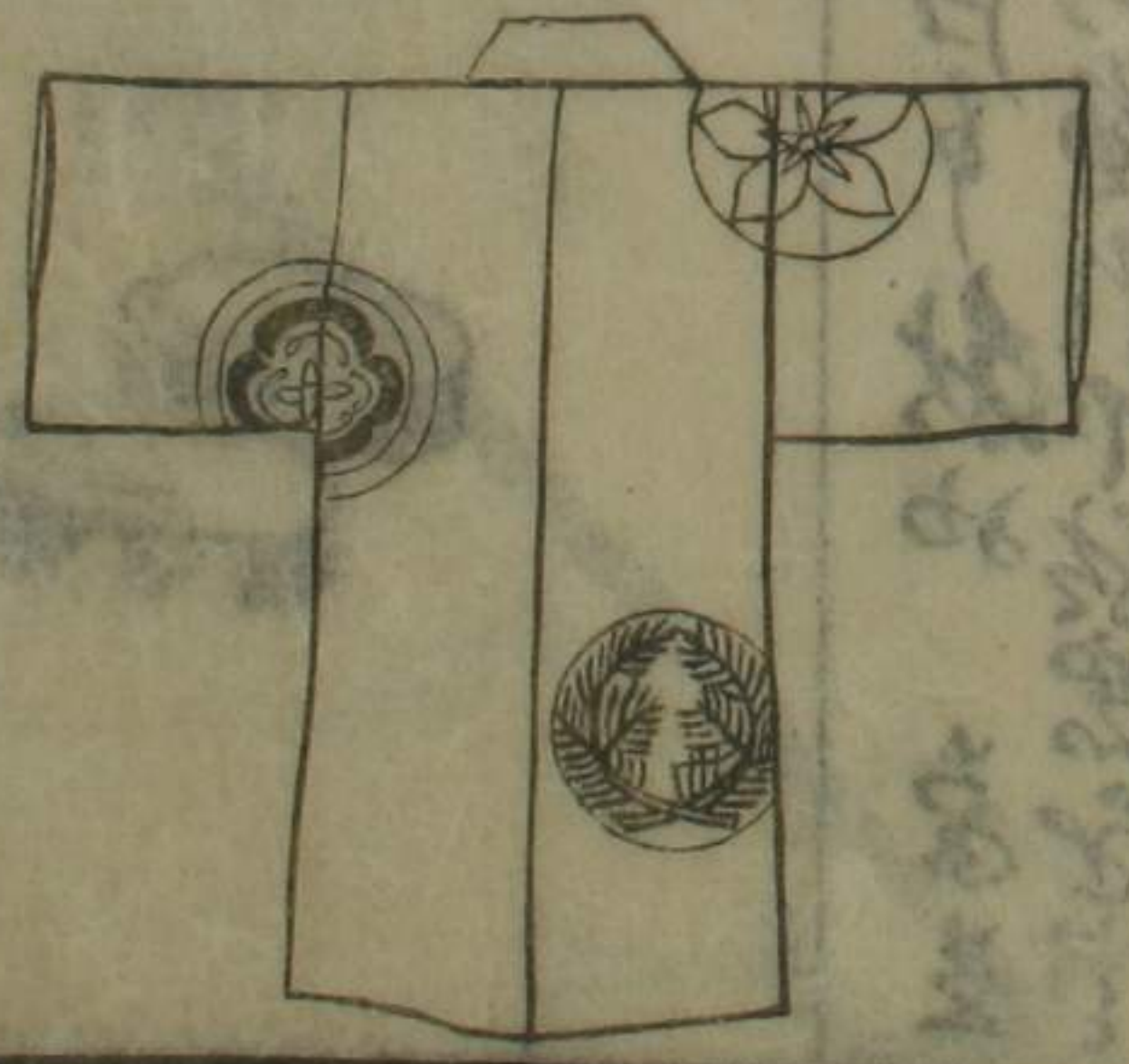
子... 九什

連篔



浴衣... 紫

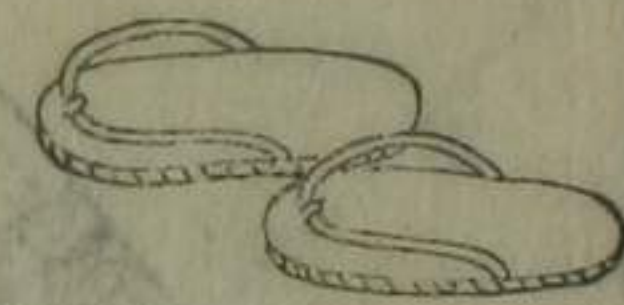
浴衣



對... 浴衣



草履 (クサジマ)



鶴や露毛  
草履と云ふ

素雪

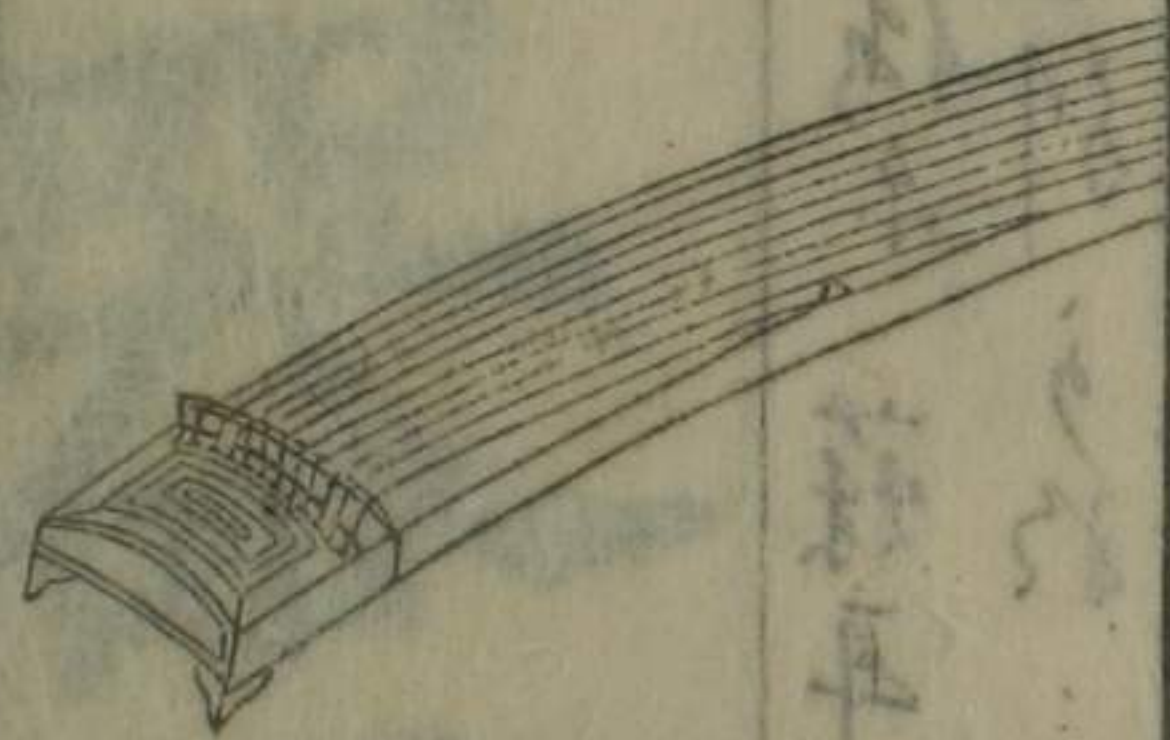
履 (ジマ)



妹の戸子  
秋の魚下  
詰書を

あま

箏 (コウ)



琴の音の  
仙潭  
うらふらうら

三絃 (サンゼン)



きりぬ  
橋もあ  
李十





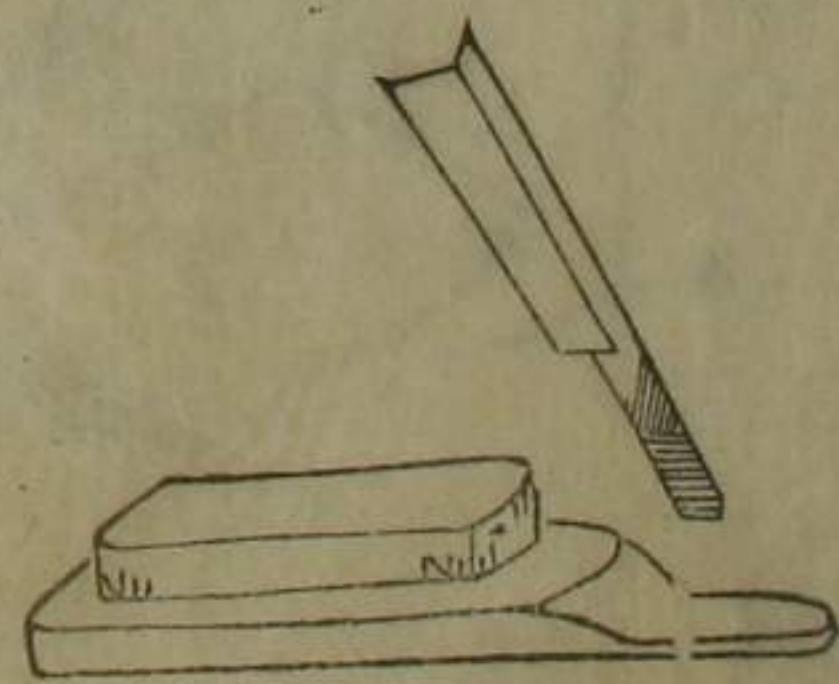


屏<sup>びん</sup>卧<sup>い</sup>



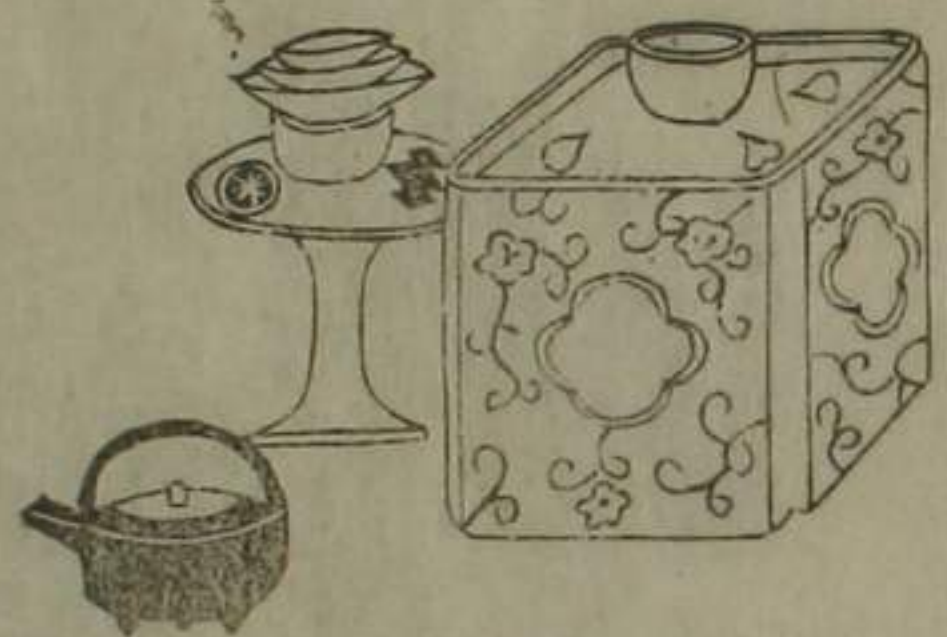
世<sup>よ</sup>の<sup>よ</sup>中<sup>ちゆう</sup>に  
屏<sup>びん</sup>風<sup>ふう</sup>よ<sup>よ</sup>く<sup>く</sup>て<sup>て</sup>涼<sup>りやう</sup>  
里<sup>り</sup>缸<sup>かう</sup>

拵<sup>かまど</sup>刀<sup>かた</sup>剃<sup>し</sup>



剃<sup>し</sup>刀<sup>かた</sup>の<sup>の</sup>唼<sup>しやう</sup>の<sup>の</sup>音<sup>ね</sup>か<sup>か</sup>こ<sup>こ</sup>や  
霜<sup>しも</sup>の<sup>の</sup>声<sup>こゑ</sup>  
ト人<sup>ひと</sup>

盃<sup>さかん</sup>托<sup>たく</sup>  
酒<sup>しゆ</sup>注<sup>ちゆう</sup>



と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>小<sup>せう</sup>照<sup>しやう</sup>る<sup>る</sup>  
盃<sup>さかん</sup>も<sup>も</sup>取<sup>と</sup>り<sup>り</sup>ま<sup>ま</sup>す<sup>す</sup>

香<sup>かう</sup>臺<sup>たい</sup>



月<sup>つき</sup>と<sup>と</sup>香<sup>かう</sup>の<sup>の</sup>物<sup>もの</sup>  
像<sup>ざう</sup>も<sup>も</sup>此<sup>こゝ</sup>に<sup>に</sup>在<sup>あ</sup>り<sup>ま</sup>す<sup>す</sup>  
茶<sup>ちや</sup>の<sup>の</sup>物<sup>もの</sup>



蛙

かき



人  
い  
蛙  
か  
眠  
鼻

螢

かき



神  
か  
螢  
鼻

禽獸



鷗う  
又また  
鷗う



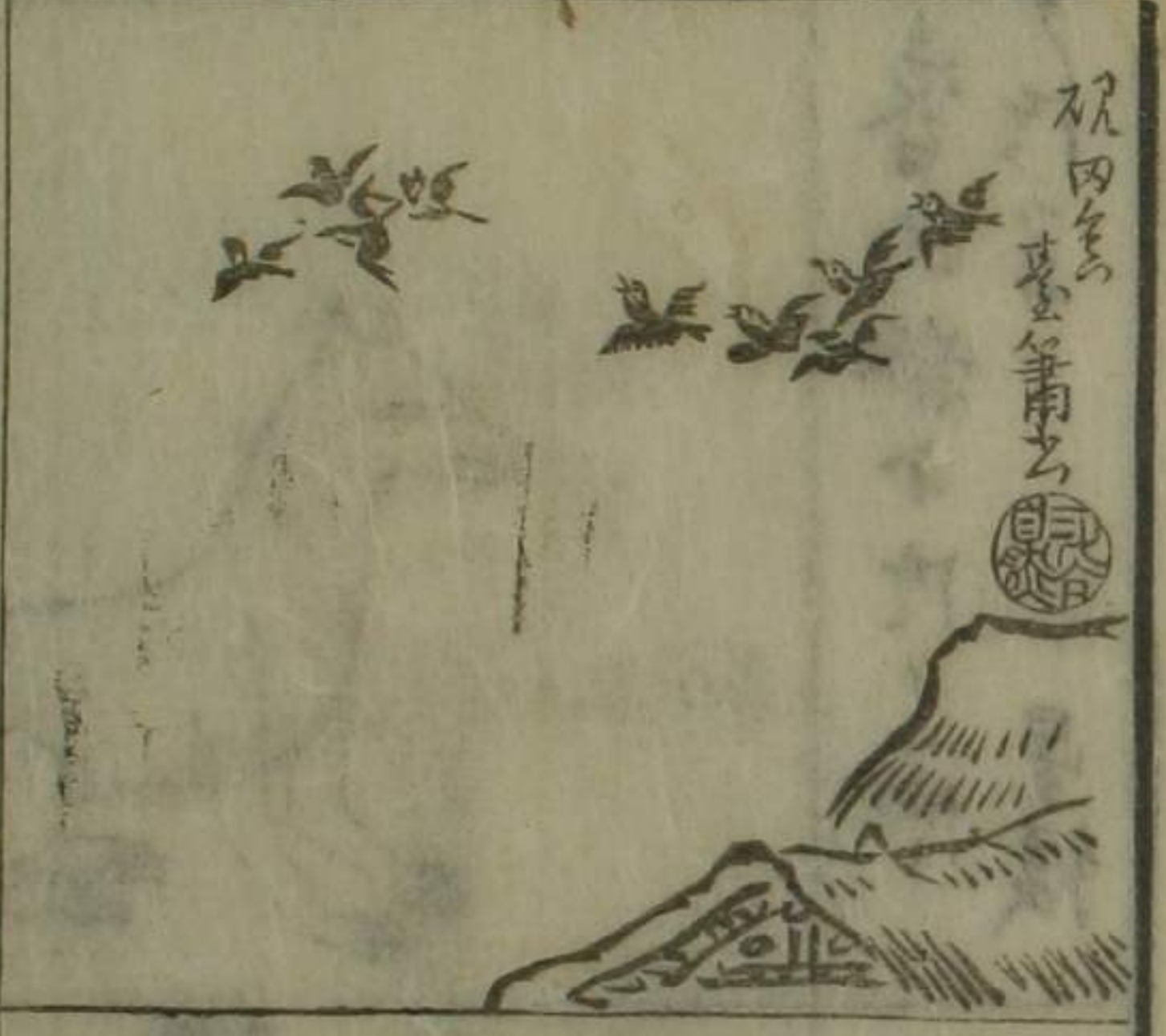
大井おおい  
石いし  
七十六しちじゅうろく  
丹志に

海うみ  
蛆うす



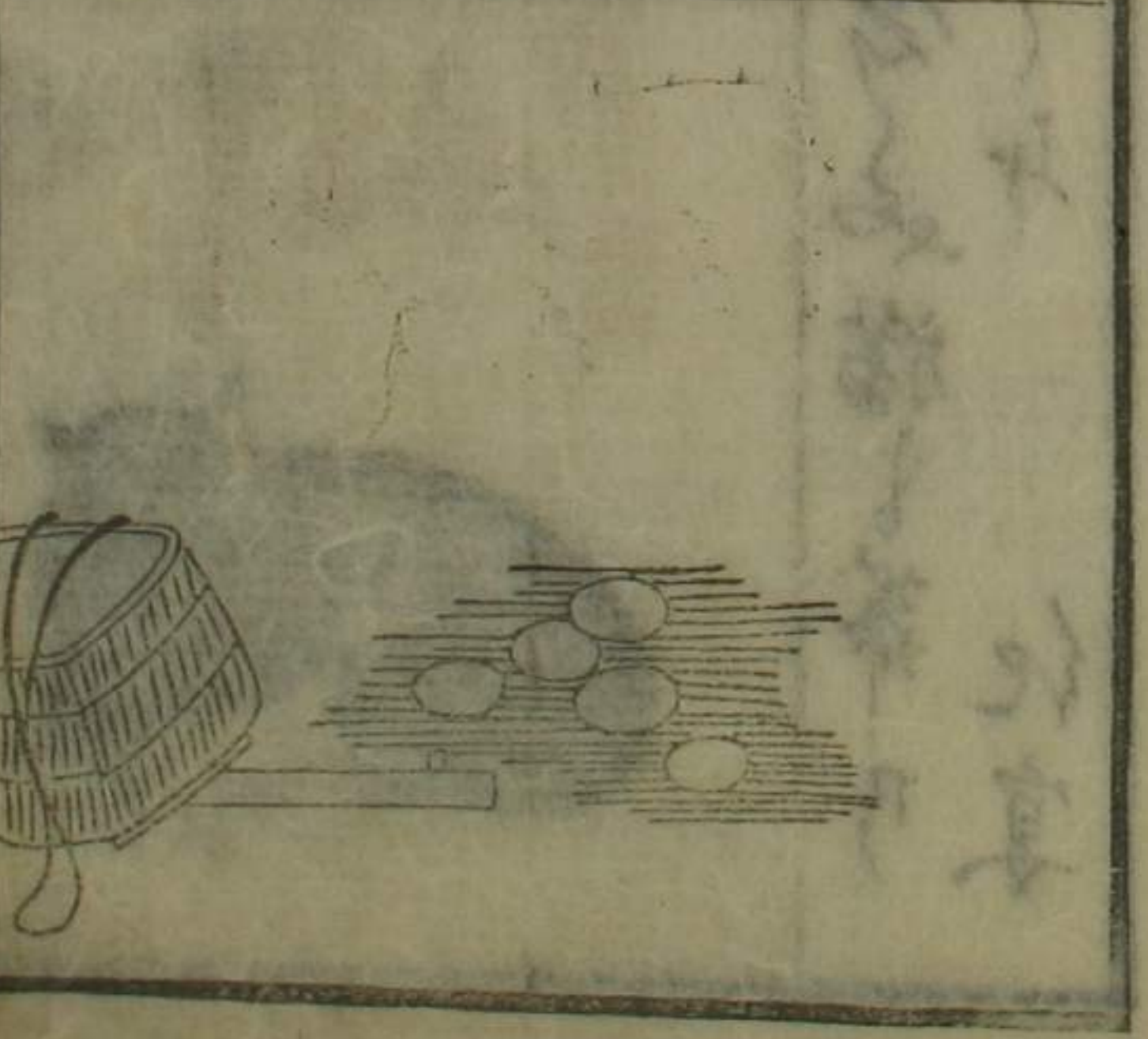
弘山こうざん  
森もり  
白梅はくばい

鳥とり  
朝鳥あさどり



かか  
可か  
水みづ

卵たまご



甲か  
白はく



# 草樹

狐

きつね  
 櫻忍ま  
 のきつね



熊の空の狐の  
 午の  
 星後

猫

ねこ  
 櫻京所  
 のねこ



瓜麿の猫も  
 水うけ  
 紀寛



松まつ  
又また 梅うめ かつら  
の月



山やま 松まつ  
廊りやう わらわし 松まつ  
の月

桃もも  
梅うめ かつら



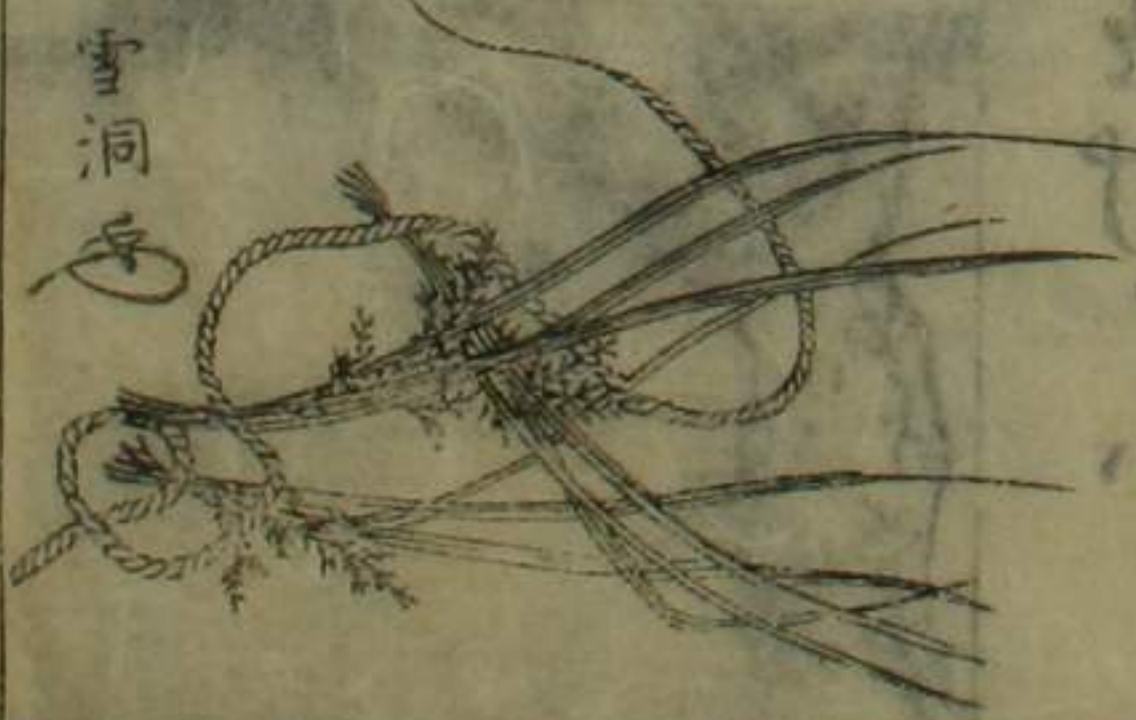
山やま 松まつ  
廊りやう わらわし 松まつ  
の月

葦あし



葦あし の 葉は の 節ふし へ  
純じゆん 翠すい  
そと ちやう ちやう ちやう

菖蒲あやめ



携たづな へ 免めん 木ぼく  
じをふあゆ先さき 心こころ  
有あ 貴い



竹 ちく

又云物日



雪も氷知り 義童  
ゆきもこりこり 義童

櫻 おう

さくら



おそろしやわらけくハ  
あふやきの袖 女純方

菊 きく

ぎく



菊の島や九月小神  
きくのみや 九月小神

養樹

躑躅 ししつ

つと



神引や老を禿す  
かみひきや 老を禿す

呂童



雪の吹く一葉をかり月おれと  
いる音子うぐいさりく

くく玉井晴し白うら月おれ 徒逸

摺うらひし房の初袖 臺箭

おりろく秋と松急の玉並え 全

ハタシ布 先棧姫より 徒逸

唐一ツ布ぬ息に遠早 全

もころ 祝の器おれ 徒逸 臺箭

芍薬よ外のまらりるるまこ 臺箭

大垣くみ人系く三人 徒逸

起るからなるうぐいさりく 全

のぬんの風ら緋袴の色 臺箭

膏薬にそく飯の器も提燈 全

やさぬるり 後家のつらぬ 徒逸

からくとは何田久保の山うら 全

あの中り 緋袴のしほに 臺箭



武士のぬすりと梅よまを  
麻呂の舟くゆまの明六 純逸  
月名の鹿目にかける筑波歌 立  
屋のひりりして笠のそまらき 亭前  
歌のつら紋は清千あな紋不 立  
難波のほとゝぎすのしりし 純逸  
徳川の切屋すむお徳つひ 立  
不詮をくきる新寺の門 亭前

すましくと夕吹くる阿すならく 立  
上戸の罷ハ急流ハお 純逸  
晴るのあまき世観する望輝豆 立  
大工の仰る 保るまの 亭前  
来くはとあまにちと二推 立  
吹も岡河と 西若丸なり 純逸  
那をうひ小月落がる 向禱 立  
拾いあくる七夕の歌 亭前



朝乞と栲栳の舟小小葉垣  
 茶とぬれぬと通くちるな  
 吸くくんの鼻と匂りせり  
 日とくくくと栲とよく見  
 案内者よとくくく花の山巡り  
 向えん子種の数かきま  
 生 生

花の香もあつく小葉垣外  
 田社  
 阿喫うまといひこよりけやふのふ  
 湖十

寶曆九年霜月

東武小川彦九郎  
 書林万屋弥市



寶曆二年

京都府京都市  
東區下京區

大正十一年  
三月十日

印

大正十一年三月十日  
0372







